

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR A 作業班（第 9 回）議事要旨（案）

- 1 開催日時：平成 28 年 8 月 24 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分
- 2 開催場所：九段第 3 号合同庁舎（関東総通局） 21 階
- 3 出席者（順不同）

【構成員】 田島主任代理（NTT-AT）、石上構成員（NICT）、篠塚主任（NICT）、中村構成員（JBMA）、三塚構成員（TELEC）、橋高構成員（ARIB）、宮田構成員（富士通）、今村構成員（NHK）、星構成員（VCCI）、藤井構成員（NICT）、登坂構成員（JET）

【事務局】 谷口電波監視官、柴田電磁障害係長、酒井官

議事概要

- (1) 田島主任から新構成員として、今村構成員及び藤井構成員の紹介があった。
- (2) 事務局から配付資料の確認が行われた。
- (3) 資料 9-1 CISPR A 作業班（第 8 回）議事要旨（案）について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで、承認された。
- (4) 資料 9-2 CISPR 杭州会議 A 小委員会 総会 対処方針（案）田島主任から提案された。主な質疑応答は以下のとおり。
 - ・（田島主任）
対処方針中「6.5.1CISPR 16-1-1 Ed. 4.0」に記載のある 1118/FDIS は正しくは 1135/FDIS に修正
 - ・（篠塚構成員）
用語の確認で資料中に較正と校正が出てくるがどちらが正しいのか。また、統一をした方が良い。
 - ・（田島主任）
事務局と確認をして正しい方に統一する
 - ・（三塚構成員）
確認ですが、ラージループアンテナの検証係数と校正は違います。現状、ラージループアンテナの校正方法はないと理解しているがよいか。また、そもそも測定環境が定められていないのでそれを追加した方がよいのではないかと

・(篠塚構成員)

ラージループアンテナでは、キャリブレーションは決めていない。現状として、あるのはバリブレーションである。そのラージループアンテナが使用できるかをある値の間にいれれば使用できる。そこで、問題となっているのはバリブレーションが CISPR 規格に載っているドラスティックなテーブルの値や図案がおかしいのではないか。というのを日本から提案をして審議中である。日本からの提案の値が認められそう。あとラージループアンテナの不確かさについて評価をしている。TDK のミドリさんとドイツのフィリップスでやりとりをしているが日本の意見が多く取り入れられて新しく提案される予定である。キャリブレーションについて現状提案は一件もない。何かよい案はあるか

・(三塚構成員)

ない

・(田島主任)

アドホックなどあるのでキャリブレーションについては現地で他の国に聞いてみる。

・(藤井構成員)

追加情報として【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】中の(1)についてレポートを出して CD の結果をまとめた CC をチェックしているところ。またそこで CISPR16-1-5 について変更は不要となり、変更が必要なのは CISPR16-1-6 のみとなって CD が出る予定。

(5) 参考資料 9-1 CISPR 杭州会議 A 小委員会 WG1 対処方針(案)について、石上構成員から説明があった。また、参考資料 9-2 CISPR 杭州会議 A 小委員会 WG2 対処方針(案)について、田島主任から説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

参考資料 9-1 について

・(藤井構成員)

審議項目「11.1 Improvements to CISPR 16-1-4 CISPR/16-1-4 の改良」の中にあつた交差偏波特性については審査項目「6.4 CISPR 16-1-4 am3 f2 Ed. 3.0: Annex H - description of uncertainty of cross polar response measurements」の CD 文書に組み込まれませんでしたか

・(石上構成員)

組み込まれました。

・(藤井構成員)

審議項目「8.4 Site validation below 30 MHz:30MHz 以下のサイト評価」のアンテナ

仕様は審査項目「6.7 EMC-antenna calibration < 30 MHz 30 MHz 以下の EMC アンテナ校正」CD が出て繰り上げられませんでしたか

・(石上構成員)

繰り上げられました。

・(篠塚構成員)

追加情報として WG1 の方 11.2V ネットインピーダンスについて、その後の経過、リーダーにクリッツさんがなってアクションアイテムを作成中で篠塚構成員から論文の内容を元に CD 案をクリッツさんに提出した。

(6) 資料 9-3-1 電波利用環境委員会報告概要(案)(A 小委員会関連)及び資料 9-3-2 電波利用環境委員会報告(案)(A 小委員会関連)について、田島主任から提案された。主な質疑応答は以下のとおり。

・(田島主任)

報告書(案)の「新たな試験法や測定装置の提案及び既存規格(CISPR 16-1-4、16-2-1、16-2-3)への反映」の【対処方針】で「A A N や 3m 測定距離における測定装置サイズに関する制限値緩和案を提案し、精度が高く、実用に即した試験法を提案する。」において 3m 測定距離について議論して頂きたい

・(篠塚構成委員)

制限値緩和案を作成するための測定・文書作成が間に合わなければ記載を削除する。中森さんと廣瀬さんに間に合うか確認した方がよい

・(谷口監視官)

先日 A 作業班の検討会で杉浦構成員からこれはおかしいと指摘をうけ杉浦構成員に根拠を示し納得させないと国の意見として提案することはできない

・(篠塚構成員)

案としては「A A N や 3m 測定距離における測定装置サイズに関する制限値緩和案を提案し」を削除して「また、精度が高く、実用に即した試験方法を提案する。」としてはどうか

・(谷口監視官)

環境委員会までに①【P】以降の文章を全部削除、②「A A N や 3m 測定距離・・・」を削除。③「3m 測定距離・・・」のみを削除するかの 3 つのうち最適なものに決める

- ・(田島主任)

AANは杉浦構成員がいろいろと準備をしているので恐らく間に合うと思うが「3m」については、杉浦構成員を納得させる根拠が出せなければ削除する方向で進める

(7) 資料9-4 CISPR 杭州会議 A 小委員会関連会議参加者(案)について、田島主任から提案された。

- ・(田島主任)

TDK ミドリさん、JEITA の廣瀬さん、VCCI の長部さん、VCCI の島先さんを追加してほしい

(8) 参考資料9-4 CISPR-16-1-4 意見公募対象及び参考資料9-5 CISPR-16-1-4 意見公募結果(案)について、田島主任から提案された。主な質疑応答は以下のとおり。

- ・(田島主任)

パブリックコメントにコメントが提出されたのでコメントに対する考え方を議論して頂きたい。

- ・(篠塚構成員)

コメントの同調ダイポールアンテナを使用しなくなったためとあるが本当か

- ・(三塚構成員)

VCCI で登録してある測定器でみると数件しかない、TELEC では、微弱無線機の測定をするときに告示でサイト評価に同調ダイポールアンテナを用いて測定することと定められているため使用している。附則 Z を削除することで微弱の告示も変わるのであればよりよい。

- ・(篠塚構成員)

確認ですが、TELEC では VCCI 関係の測定では広帯域アンテナを用いて行っているが微弱を測定するときは同調ダイポールアンテナを用いる

- ・(三塚構成員)

そうです。

- ・(宮田構成員)

同調ダイポールアンテナはほとんど持ちいらぬ。VCCI で検討したとき、もともと同調ダイポールアンテナで測定してきている。同調ダイポールアンテナでは、測定周波数が連続していなくてそれで電波暗室を調整してきている。一概に広帯域アンテナにすると測定周波数が連続であるため外れるとことがでる可能性があるのでは同調ダイポールアンテナでの測定を残している。

今後はCISPR16-1-4で同調ダイポールアンテナの記載がなくなったのであれば国際基準に合わせて広帯域アンテナで行うべきだ。

- ・(篠塚構成員)

問題は微弱の告示が合わなくなってくること

・（藤井構成員）

もともと告示を作るときに CISPR16-1-4 で同調ダイポールアンテナを使用していたので入っているが現在の CISPR16-1-4 では同調ダイポールアンテナが削除されているので告示も合わせるのがよい

・（三塚構成員）

告示を定めるときにこの表は日本独自で作って入れた。

・（篠塚構成員）

国際的にも同調ダイポールアンテナを削除したのであれば、附則 Z を削除してもよい。将来的に告示を広帯域アンテナでもよいと改正することが望ましい。その方がサイト評価がしっかりできる。

・（田島主任）

結論として、附則 Z は削除してもよい

- (9) 本日の審議結果をもとに、電波利用環境委員会報告（案）を作成し、9月13日の電波利用環境委員会において対処方針を審議することとした。また、次回会合については、主任と相談の上、事務局から構成員に連絡する。

以上